

## 銀賞

リリーフの神様

マツダ株式会社 本社工場

市川 真二

「素材」って皆さんご存じでしょうか？素材を生かした料理など、基になる材料のことです。私が配属された溶解職場の素材は「鉄」です。この鉄を溶かして新しいモノに生まれ変わる鑄鉄工場で、車の足回り部品ステアリングナックルを製造しているのが私の職場です。私が配属されたのは6年前の残暑厳しい夏の終わりで、外は30℃を超える暑さの中、作業者は安全のために全身保護具を身に纏い、汗をかきながら作業している姿を見ていると「ここでやっていけるだろうか？」と不安に感じた反面、男らしくてカッコいいなぁと思ったことを今でも覚えています。

最初に私が配置された工程は砂型に溶けた鉄を注ぐ、溶解職場の最終工程である自動注湯機工程です。隣の造型職場で造られたナックルの砂型に、完璧に調整された成分・温度の溶けた鉄を自動注湯機で操作して注ぎ込むのが私の作業です。「自動で注ぎ込むのだから楽だな」と思ったら大間違い。溶けた鉄は生き物に例えられるように、時間経過による温度変化や成分変化、ちょっとした油断で起こる溶けた鉄の飛散、スラグと呼ばれる酸化物の付着等、色々な要因で精密動作する自動注湯機に異常を起こすのです。異常を知らせる大きなブザーが工場内に響き渡ると私はビクッとして心臓の鼓動が早くなります。でも、そこにいつも登場するのはリリーの先輩です。すぐに原因を見つけ、あっという間に解決し何事もなかったかのように去っていくのです。この先輩に任せてとけば大丈夫、次に異常が起こっても先輩が助けてくれると思っていました。

そんな日々が続いたある日、職場の中で編成替えがあり、頼りにしていた先輩が反対直へ行くことになったのです。愕然としていた私に先輩が一言「なんかあったら言ってこい。職場移動じゃないんじゃけ」その時はっと気が付いたのです。頼りきっていたことで自分に全く知識とスキルがなかったことに。その日から自動注湯機と睨めっこの日々が始まりました。メンテ日には勉強のために日頃見ていないところまで興味を持ち、保全マンにも異常や不具合の現象について質問を連発するようになりました。しかし、保全マンからは「まず掃除しろ。保全の基本は4Sじゃ」と教えられ、清掃・不具合発見・対策を繰り返す。

返す日々で、気が付けば自動注湯機という設備が段々と分かり、自動注湯機に愛着が湧いてきている自分がいました。「なんでこんな異常が出るんだろ？こんな所に負荷が掛かっていたんだな。こんな風にしたらどうだろう」サークルリーダーと一緒に自動注湯機を見ていくと、少しずつではありますが異常の回数が減ってきて、愛情を持って接すれば設備も答えてくれるんだなと嬉しく思いました。

そんなある日、職長から「あの城（自動注湯機）を守ってくれんか」と言われました。つまり、自動注湯機の異常処置指名者の任命と同時に、自動注湯機工程の自主保全リーダーを任されたのです。今までコツコツやってきたことが認められた嬉しさと責任を持たされた重圧で背筋がピンと伸びるのを感じました。

あれから1年、自主保全の基本は4Sじゃ！とメンバーに言っている自分がいます。鉄を溶かす溶解工程は汚いのが当たり前になっていたメンバーも、ウエスを持って操作盤を磨いてくれるようになりました。そういえばこの間、私の後輩が「汚い手袋したまま操作盤に触るなよ。汚れるじゃろうが」と他のメンバーに相互注意しているのを見て、私は心の中で「ありがとー！」と叫びました。

まだまだ他の職場と比べても褒められる職場ではありませんが、設備に一層の愛着を持ち、メンバー一丸となって溶解職場を変えていきたいと思います。マツダで一番の職場にする、それが今の私の夢です。そのための第一歩は。「初心忘れるべからず」です。今日も朝からウエスを持って操作盤を磨いています。